

ご挨拶にかえて—2011 年度をふりかえって

市民公益活動パートナーズ 代表理事 古山 郁

最初に、2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災及び福島原発事故災害で家族を亡くされたり、未だ故郷に帰還できない方々に対し、心からお見舞い申し上げます。

2010 年度は大災害が発生した年であり、囂らずも復興支援活動を優先した取り組みが主になりがちでしたが、2011 年度はこれらを見直し、広域の民間中間支援 NPO としてのミッションに相応した組織の基盤づくりをするために、事業全体の組立てを見直したり、財源確保の際、事業内容に関しても協議を重ねた結果、その足掛かりを作りつつあります。

しかしながら、福島の災害からの復興は長期化することは明らかであり、避難されている方々の生活再建や地域の復興、コミュニティの再生に向けた課題解決など多様な後方支援活動も継続する必要があります。

会員のみなさまには今後、事業等に関わって頂いたり、事務局をサポートして頂くなど、より積極的なご協力をお願いすることもあろうかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2011 年度の市民公益活動パートナーズについて

(1) 寄付

活動全般に対する寄付及び東日本大震災・原発事故からの復興支援活動の支援に対する寄付を 1,583,500 円いただきました。

(2) 会員

2012 年 9 月末時点で 4 名増え、現在 17 名。

そのうち、NPO 相談等自主事業を通して 2 件(個人及び法人/正会員)の入会がありました。

※2011 年 9 月末時点では会員(設立発起人)は 13 名

(3) ボランティア

2011 年度は、2010 年度に募った「こころのケア」支援活動の一環である「本箱プロジェクト」の募集に加え、福島事務所・事務局でのお手伝いメニューに加え、桜の聖母短期大学と福島学院大学駅前キャンパスの学生にボランティアを呼びかけ 10 名の登録を行いました。(昨年度から参加頂いている方を加えて 11 名)

昨年度の 50 名に比べ 2 割に留まった要因として、震災及び原発事故から 1 年を経過し、支援活動への関心がやや減少傾向にあることに加え、学生にとって魅力あるボランティア・プログラムやきめ細やかなコーディネート不足が挙げられると考えており、一工夫が必要です。

(4)今年度の事業について

さて、法人設立の初年度だった2010年度(11年2月25日～11年9月30日)は約7ヶ月程しかなく、この2011年度は(11年度10月1日～12年9月30日)はようやく1年間しっかりと事業に取り組むことが出来ました。

2011年度の取り組みは、その前半と後半で大きな違いがありました。12年3月末までの上半期は、初年度からの震災復興支援活動を継続しました。しかし4月からの下半期は、中間支援組織の組織の基盤強化や、役員及びスタッフのスキルアップを図りながら、かつ震災復興支援活動に関わる事業構成を目指しました。

応募した助成金事業の約8割が採択され、組織基盤強化と情報の受発信に関わる事業が約6割、自主事業である市民公益活動促進支援が2割強、生活再建支援やコミュニティ再生支援等の復興支援活動が2割弱と、復興支援関連の助成金ではあるものの、パートナーズがこれから中間支援組織としてふさわしい事業を行っていくための基礎づくりとして、恵まれた下半期であり、かつ2012年度の上半期の取り組みが始まっています。

さらに、下半期から取り組んでいる「支援情報ワンストップサービス化推進のための基盤強化プロジェクト」と、学生とNPOとのコラボ事業である「「ひと・つながる」復興支援調査・交流推進プロジェクト」双方による支援情報の収集に基づいたWeb支援情報ステーションの開設や情報発信等は、一見、復興支援活動に見えますが、情報のデータベースづくりは定款に掲げた主要な事業であり、地域や人を「つなぐ」役割を担う大切な基盤でもあります。

これらの事業や被災者の生活再建支援を中心とした後方支援活動と市民公益活動支援活動(自主事業)は幾重にも重なりあっています。仕組みづくりにはやや時間はかかるかもしれませんが、あたかも織物を織り上げるような成果が期待できると考えています。

2012年5月14日 福島事務所玄関先で
(福島・山形の役員と福島事務所スタッフ
一ひと・つPJ書類提出のために撮影)



2011 年度事業について

<自主事業> 市民公益活動促進支援事業

(1) ふくしま復興塾

目的と主な内容: 東日本大震災・津波災害及び原発事故からの福島県における復興活動を通じ、これからの地域づくりやコミュニティ再生を実践・支援しようとする NPO 法人や市民活動団体等の有志の集いとして、2010 年 5 月に立ち上げました。

被災地や市民の支援に関するニーズの把握、復興に向けての情報集を行い、時には緩やかな連携を視野に入れながら、毎回のテーマに沿った話題提供者を招き、話を聞いたり、共に解決策を考えたりしながら、具体的な復興活動へのきっかけとなることを目指しています。

Vol.	テーマ	開催日	開催場所	話題提供者	参加者
4	福島県内応急仮設住宅の現状からみる復興支援活動の課題とこれからの支援活動について ー 第1次仮設住宅アセスメント報告に基づいてー	2011年 10月19日	福島市市民活動 サポートセンター	江川 和弥さん 元気玉プロジェクト	12名
5	東京電力への原子力損害賠償請求にかかる諸問題 ー 仮設住宅における損害賠償請求勉強会 現場からの声ー	11月16日	福島市市民活動 サポートセンター	松田 英明さん 北歐から学ぶふくしまの会	10名
6	震災後の学生ボランティアの取り組みと各種団体との連携について	12月14日	福島市市民活動 サポートセンター	伊藤 航さん(福島大4年) 山口小百合さん(福島学院大3年)	12名
7	あの日から1年2ヶ月 自治会の本音を聴く	2012年 5月12日	福島市市民活動 サポートセンター	石井 啓輔さん 桑折駅前応急仮設住宅自治会 副会長 伊藤 暢秀さん 春日町借上げ住宅浪江会 会長 叶 喜康さん 笹谷東部応急仮設住宅自治会 会長 武田 徹さん 米沢雇用促進住宅 万世宿舍 自治会 会長	23名
8	ワークショップ「福島県の支援活動を可視化しよう！」	8月6日	福島市市民活動 サポートセンター	ファミリーーター 伴場 賢一さん、羽鳥 圭さん ふくしま連携復興センター	20団体

ふりかえり: 2012 年に入ってからテーマの選定に苦慮し開催が 2 回に留まったが、vol.8 の WS はひと・つ P J の調査事業とも密接に関連するテーマであったため、学生チームやファミリーーターと共に内容を協議し、実施しました。参加団体からの評価もよく、「ひと・つ P J」による調査および情報集約への期待も大きかったのが大きな成果でした。



(2) 市民公益活動及び NPO 相談

目的: 市民活動団体の立ち上げや NPO 法人設立相談をはじめ、助成金情報の提供や申請書へのアドバイス、NPO 法人の運営など、活動に伴う様々な問合せ及び相談に対応しています。

また、この取り組みを通じて、中間支援組織としてのスキルアップとよりの確な業務遂行を目指しています。

★2012 年 6 月から(公益財団)三菱商事復興支援財団の助成を受けて、この相談業務や人材育成、NPO 組織基盤強化に関わる事業として 2013 年 3 月まで取り組んでいます。

詳細については、ふりかえりも含めて、後述する助成事業の項目をご覧ください。



<連携・協力事業>

(1) 「浪江のこころ」プロジェクトへの取材協力

(浪江町広報誌・特集「浪江のこころ通信」原稿製作)

目的と内容: 双葉郡浪江町の月刊広報誌「広報なみえ」の特集ページ「浪江のこころ通信」記事の取材活動を行っています。

この特集は、東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会(仙台)(高崎経済大学櫻井研究室(編集責任者))を中心として全国の NPO や大学が協力・連携し、福島県内外に避難している浪江町民の方々を訪ね、紙面を作っています。

取材では災害当時の避難の様子や今の暮らし、浪江町や故郷の人たちへの思いなどをお聞きし、顔写真と共に記事原稿の制作、入稿を行っています。県内の活動をまとめる元気玉プロジェクト(会津若松市)との協力体制のもと、第 5 号(2011 年 10 月取材)～第 16 号(2012 年 9 月)までの取材(12 回)に関わっています。

ふりかえり: 毎月、取材活動を続けています(月平均 2 名)。二本松市や本宮市等、やや遠方を訪ねる機会もあり、被取材者の生の声を聴くことによって、日頃活動するエリアや頻りにコミュニケーションをとる仮設住宅等とは異なった課題の発見や、ニーズを把握できる場合もあり、有意義な取り組みになっています。



(2)伊達桑折×双葉浪江＝交流と賑わいづくり連絡協議会―事務局業務と事業への取組み
2010年度福島県の補助金事業※は2012年3月で終了したが、引き続き協議会事務局を務め、事業の大半(CSB研修会やおたがいさま新聞の発行等、主として生活再建支援活動)を継続しています。

★2012年6月、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成金事業に採択され、2013年3月までの約11ヶ月間の活動に助成を得ました。

詳細については、ふりかえりも含めて、後述する助成事業の項目をご覧ください。

※参考

福島県地域づくり総合支援事業・地域協働モデル事業(新しい公共支援事業)

「伊達桑折×双葉浪江＝交流と賑わいづくり応援プロジェクト」

※この補助金事業は、地域活動団体等と区市町村を構成員に含む協議体で実施。

2011年9月15日に「伊達桑折×双葉浪江＝交流と賑わいづくり応援プロジェクト連絡協議会」を設立し、2012年3月まで事業に取り組みました。

連絡協議会構成団体: 桑折町・浪江町・(社福)浪江町社会福祉協議会・桑折駅前高級仮設住宅自治会・(特活)いいざかさポーターズクラブ・(特活)まごころサービス福島センター・(特活)市民公益活動パートナーズ 以上7団体

(2012年3月末、事業終了と同時に、(特活)まごころサービス福島センターさんは退会)

目的: 桑折町仮設応急住宅で生活再建を図る双葉郡浪江町民の自立を支援するコミュニティサービス・ビジネス(CSB)等の担い手を育成するとともに、浪江町と桑折町民との交流を創り出し、「おたがいさまバザール」「ホタぼん」を通じた新たなまちの賑わいづくりに取り組むことを目指しています。

◆事業実施期間: 2011年(平成23年)8月26日～2012年(平成24年)3月31日/約7ヶ月間

◆事業費: 3,490,000円(消費税込) → **決算額: 1,858,000円**

※「おたがいさまバザール」の中止、「ホタぼん」の取り組みの縮小等により計画を変更したため

◆事業のための新規雇用者: 2名(福島事務所常勤1名、桑折町現地スタッフ1名)

◆主な事業内容

1. 桑折町民と浪江町民の交流促進及び新たなまちの賑わい創出事業
 - ・「まちなかサロン」を核とした mini イベントや夜学の開催と、月刊「おたがいさま新聞」の発行
 - ・おたがいさまバザール×地域クーポン券「ホタぼん」の仕組みづくり
2. 浪江町の早期帰町への支援及び桑折町と浪江町の新たな関係づくり支援事業
 - ・原発事故損害賠償請求に関する勉強会
3. 新しい公共の担い手となるコミュニティサービス・ビジネス(CSB)人材育成事業(勉強会)



2011 年度上半期(2012 年度 3 月 31 日に取り組みを終了した事業)

<助成事業>

(社福)中央共同募金会 赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」助成事業
「相双地域・後方支援プロジェクト～三重苦からの生活再建を支えるために～」

目的:地震・津波災害の被災地でありながら、原発事故により復興が立ち遅れた相双地域の災害復旧や生活再建活動を支援するため、福島市に後方支援ステーションを設置し(当法人事務所内)、被災地の復旧活動と被災者の暮らしや心を支える継続的できめ細やかな支援を目指しながら、取り組みました。

◆事業実施期間:2011 年(平成 23 年)4 月 20 日～12 月末頃/約 8 ヶ月間

上記助成事業は、既に活動を開始しており、その活動に係った経費を支援するものです。

◆事業費:助成金額 183 万円 →**決算額 1,419,919 円**/助成額:141 万円 (達成率 約 77%)

7 月 22 日決定通知書 188 万円→修正額:183 万円(ボランティア昼食代差引)

◆事業のための人件費確保:1 名分(福島事務所 常勤 1 名)

◆主な事業内容

相双地域及び県北地域の仮設住宅等に居住する被災者に対し、①災害復旧、②生活再建、③心のケアの 3 つの支援の柱(災害復旧支援活動「とんボラ」・生活再建支援活動「ねこボラ」・“いつもの暮らしに戻る心のケア”支援活動「ころボラ」)を取り組みの柱とし、中間支援 NPO としてボランティアコーディネイトとマッチングをベースに、県内外 NPO 団体や企業等とも協働しながら、特に支援の手が入り難い障がい者や高齢者に配慮を付け加えた支援活動を進めることを目指しました。

ふりかえり:取り組みの 3 つの柱のうち、災害復旧支援活動「とんボラ」一ボラバスの運行とボランティア派遣では他の NPO との連携を前提に、南相馬市を中心とした被災地への支援を企画したが、バスの手配が難航したことや、現地での放射線量が予想外に高く活動の継続が疑問視されたこと等があり、この活動を取りやめ、経費予算からその経費を減額しました。(42 万円)また、「ねこボラ」も長引く原発事故の影響で仮設住宅等からの移住が進まず、活動の成果が上がりませんでした。

反面、「ころボラ」で取り組んだまち歩きや映画等“敷居の低い”支援活動へのニーズは高く、高齢者の外出を促したり、ひきこもりを防止するためにも継続する意義も十分にあると考え、2011 年度下半期(2012 年 4 月以降)も財源を確保して取り組むこととし、12 年 6 月赤い羽根ボラサポから再び採択を受け、現在も継続中です。

<受託事業>

福島県緊急雇用創出事業「がんばろう福島の企業！新規創業支援事業」

「地域コーディネーター育成研修事業」

目的:東日本大震災・津波及び原発事故以前より大きな地域課題となっているコミュニティ再生に加え、この災害による被災地域と避難者受入地域等における新たなコミュニティの編み直しなどに積極的に取り組む、地元のお世話役—地域コーディネーターを育てることを目指しました。

◆事業実施期間:2011年(平成23年)7月1日～2012年(平成24年)3月31日／約9ヶ月間

◆事業費:5,678,593円(消費税込) →**決算額:4,615,176円** (達成率 約82%)

◆事業のための新規雇用者:2名(福島事務所 常勤)

◆主な事業内容(実施予定も若干含めます)

◇OJT研修 ・県北北部及び相双地域・仮設住宅第1次アセスメント活動(住宅環境の評価、一部住民への住環境に対する聞き取り調査など)、

◇専門研修

地域コーディネーター研修会(基礎編・ワークショップ編・広報デザイン編)を2011年10月～2012年3月まで開催。かつ、内部研修(「基礎の基礎」編)には、当法人の他の事業担当スタッフやNPOでの勤務経験の浅い事務局スタッフなども加わり、学びました。

ふりかえり:事業を担当するスタッフが、研修会等を企画、実施する主催者側であると同時に、研修対象者ともなる事業。座学やワークショップに留まらず、応急仮設住宅アセスメント調査(夏期・冬期)や、復興活動先進地事例として新潟・米沢への視察等、バリエーション豊かな研修プログラムの提案と成果が得られたと考えています。しかし、約9ヶ月という実施期間で、事業に取り組んだスタッフのスキルアップに貢献したかについては、やや疑問が残りました。

なお、県との受託契約(11年7月1日)を交わした後、スタッフの採用決定までに約2ヶ月かかってしまい、委託料から指導者も含めた人件費が減額となりました。(約106万円)

2011 年度下半期(現在、取り組み継続中の助成事業。2012 年度 3 月に終了予定)

<助成事業>

(1) 認定 NPO 法人日本 NPO センター 東日本震災現地 NPO 応援基金

「支援情報ワンストップサービス化推進のための組織基盤強化」

(通称 ワンストップ化推進 PJ)

目的: 大震災・原発事故からまもなく1年が経過するにも関わらず、帰還の目途は未だ立たず、避難住民はもちろん避難受入地域もまた、新たな地域コミュニティづくりをはじめとした困難な課題に直面しています。

こうした課題解決の一つとして、浪江町民同士を長期に亘って繋ぎ続ける仕組みが必要であり、浪江町をはじめとする被災地の復興支援活動を行っている団体等の情報集積を行うことにより、必要な支援情報がワンストップで得られ、ニーズに合った支援活動や団体のマッチングを行う「情報ステーション」を設けることを目的にしています。

◆事業実施期間:2012 年(平成 24 年)4 月 1 日~2013 年(平成 25 年)3 月 31 日

◆事業費:394 万円

◆事業のための人材費確保:3 名(福島事務所 常勤 1 名、現地スタッフ 2 名)

◆主な事業内容

1. 福島県・県北地方北部を中心に浪江町住民等をつなぐ支援情報の収集と発信
「浪江のえがお」プロジェクト(支援ニーズに対する取材活動)
2. 「支援情報ステーション(仮称)」の基盤整備

取り組みの状況

・復興支援に関わる支援活動団体等の情報収集—浪江町民への支援活動を継続的に行っている団体を中心に取材。支援情報のデータベースづくりを目指し、情報を収集し続けています。(9 月末で 87 件)

・「浪江のえがお」プロジェクト—浪江町民の「今」(顔と声)を集め、点在して避難生活を送る町民をつなぐ支援を 7 月より開始。(9 月末で 17 名)。Web への掲載準備が整うまで、当面「おたがいさま新聞」で紹介しています。

・Web データベース「情報ステーション」の開設が計画より遅れています。スケジュールを見直し、年内には試行運用を開始できるように努めること、2013 年 3 月迄に Web 閲覧者へのアンケートを実施することを改めて目指します。

※2012 年 10 月 15 日 仙台で開催された
中間報告・情報交換会に出席(古山、佐藤耕平さん)

*発表した際のパワポ資料は、末尾「参考資料」に収録



(2)住友商事(株) 東日本再生コースチャレンジ・プログラム 2012

「「ひと・つながる」復興支援調査・交流推進プロジェクト」(通称 ひと・つPJ)

目的: 今回の大震災・原発事故災害からの復旧・復興では、多くのNPO等の団体がそれぞれの専門性を活かして様々な支援活動を行っています。その中で、学生団体 福島大学学生ボランティアセンターは学生の視点と若者らしいフットワークで支援活動を行っています。しかし、震災復興支援という同じ志を持ちながら、各団体の組織概要や活動の情報が集約されておらず、特に福島県内や県外に避難する県民を支える活動が見え難いのが現状です。支援が長期化する中、ヨコとタテのつながりが今後一層求められると考え、広域の中間支援組織である私たちと福大ボラセンがコラボしながら調査事業を行うものです。継続した復興活動に対する問題点や課題を広く共有しつつ、NPOとNPO、学生の顔の見える連携を図ることによって、今後の支援活動に活かすことも目的にしています。

◆事業実施期間:2012年6月1日~2013年3月31日

◆事業費:298万円

◆事業のための人材費確保:パートナーズ2名・学生スタッフ4名(月10回~12回程度)

◆主な事業内容

1. 福島県(県北地方、県中およびいわき地方の一部、相双地方)、山形県米沢市周辺、宮城県白石市等仙南地域で継続的に復興支援活動に直接的、間接的に関わるNPO等の調査
2. NPO-学生のネットワークづくり
3. (NPO-学生ネットワークの支援企画として)シンポジウムの開催

取り組みの状況

・6月のPJ開始から対象地域の支援活動団体の大まかな現状把握から開始(240団体のリストアップ)し、8月下旬より詳細な調査票に基づいたインタビュー調査を実施中です。

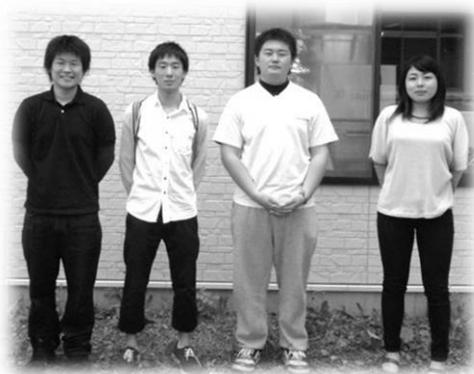
(福島県45団体、山形県10団体、宮城県5団体を目標に。9月末、約45%を終了)

・現在、宮城県仙南地域の情報が少なく、やや難航していますが、今後、調査の残る福島県相双地方及び山形県米沢市周辺と共に、取り組みを急ぎます。

・ワンストップ化推進PJ「情報ステーション」への情報アップの準備が遅れていますが、これについても年内或いは年明け早々の試験運行を目標にしています。

PJチーム(学生)紹介

左端から、土谷一貴君(PJチーフリーダー)
安達隆裕君、川村遼君、塩谷麻友さん(サブリーダー)



※学生チームから見た事業(上半期)に対するふりかえり
は、「まなびピア2012」ポスターセッション(2012年11月10日)の資料は、末尾「参考資料」に収録

(3) (社福)中央共同募金会 赤い羽根「災害ボランティア・NPO サポート募金」助成事業
「いつもの暮らしに戻ろうー心のケア、コミュニティと生活の再建ー応援プロジェクト」

目的: 原発事故からの避難生活の長期化と震災以降の避難元の地域住民同士や避難受入地域における新たなコミュニティづくりが急がれている中、故郷に帰れないまま不自由な生活を送る方々の精神的な負担は計り知れず、その心のケアとなる安らぎや潤いを提供することや仕事づくりの足掛かりとなる活動を支援することを目的にしています。さらに、同じ地域の住民が仮設住宅や借上げ住宅に点在して暮らしている、特に浪江町民に対し、草の根的かつ互助的な支援情報や町民の様子を、活字メディアで伝えることを通して、コミュニティを育むための支援を行うことも目指しています。

◆事業実施期間:2012年4月～2013年3月(この期間の活動11ヶ月分に対して助成)
(採択は6月ですが、既に取り組み始めた4月に遡って必要経費が認められています)

◆事業費:180万円

◆事業のための人材費確保:2名(事業の事務と業務の一部/業務の一部を他の事業と連動して実施)

◆主な事業内容:生活再建支援ー「お母さんの小商い応援プロジェクト」(活動団体やコミュニティビジネスへの活動支援)、心のケア支援ー“癒しの種”プロジェクト(本箱プロジェクトや映画上映会、まち歩き等)、地域コミュニティ支援ー「おたがいさま新聞」拡大プロジェクトの3つの柱で取り組んでいます。

取り組みの状況

・この事業は、2011年8月～2012年3月まで取り組んだ「新しい公共」支援事業「伊達桑折×双葉浪江＝交流と賑わいづくり応援プロジェクト」でニーズが多かったプログラムを中心に、それらを発展させたカタチで取り組んでいます。

・取り組みは概ね順調ですが、お母さんの小商い応援PJの進行の遅延と、本箱PJの配本・交換頻度の増やし方が課題になっています。

・心のケア支援ー“癒しの種”PJの一つ「まちあるきワークショップ」では、歴史や風景に親しむ「桑折学ちよこつと散歩」の成果として、マップ「浪江町民が選ぶ桑折町～おすすめスポットランキング～」を製作しました。3月末には第2弾を製作する予定です。



赤い羽根「いつも暮らしに戻ろう—こころのケア、コミュニティと生活の再建—応援プロジェクト」 生活再建支援(お母さんの小商い応援PJ)・心のケア支援(“癒しの種”PJ) 主な実績			
日付	場 所	活動/支援団体等 内容	参加人数
4月22日	伊達郡桑折町 福島蚕糸跡地	桑折宿軽トラ市(コスモス手づくりの会)	60
5月7日	桑折駅前応急仮設住宅集会所	笹谷東部×桑折・浪江町民交流会	60
5月24日	桑折町	桑折学ちよこつと散歩	33
5月25日	笹谷東部応急仮設住宅集会所(福島市)	映画上映会「禁じられた遊び」	28
〃	〃	本箱PJ/配本・交換	
6月24日	桑折駅前応急仮設住宅集会所	本箱PJ/配本・交換	
6月28日	桑折町	桑折学ちよこつと散歩	35
6月29日	笹谷東部応急仮設住宅集会所	映画上映会「プール」	20
7月3日	恵向公園仮設住宅集会所(本宮市荒井)	映画上映会「東京タワー」	28
7月7日	桑折御蔵	映画上映会「チルソクの夏」	12
7月22日	桑折町	桑折宿軽トラ市(コスモス手づくりの会)	6
7月25日	笹谷東部応急仮設住宅集会所	映画上映会「新しい人生のはじめ方」	20
7月26日	桑折町	桑折学ちよこつと散歩(まとめWS)	15
7月27日	平石、太子堂応急仮設住宅集会所(二本松市)	本箱PJ/配本・交換	
8月3日	郭内応急仮設住宅集会所(二本松市)	本箱PJ/配本・交換	
8月18日	北幹線第一仮設住宅集会所(福島市)	習字教室	7
8月23日	笹谷東部応急仮設住宅集会所	映画上映会「ピノキオ」	15
〃	〃	本箱PJ/配本・交換	
8月24日	桑折町	桑折ちよこつと散歩(前半まとめのWS)	6
9月8、9日	郡山(ビックパレット)ごちそう福島満喫フェア	いいざか花もも倶楽部(フルーツキムチ)	48,000
9月26日	桑折駅前応急仮設住宅集会所	「手づくりトークカフェ」	12
9月27日	桑折駅前応急仮設住宅集会所	桑折ちよこつと散歩	17
9月28日	笹谷東部応急仮設住宅集会所	映画上映会「スウィング・ガール」	18
〃	〃	本箱PJ/配本・交換	
9月29日	図書カフェまゆたま(伊達郡桑折町)	映画上映会「大阪ハムレット」	9

地域コミュニティ支援(「おたがいさま新聞」発行と配布 実績)		
発刊日	新聞	主な配布先
	2011年11月30日～2012年3月30日 おたがいさま新聞 創刊準備号、第1号～第4号	伊達郡桑折町、他 約850 桑折町内:全戸回覧(580) 浪江団地内:全戸配布(230) 公民館、銀行、スーパー、商店等据置き(31)
5月23日	おたがいさま新聞拡大版 準備号(通巻第6号)	伊達郡桑折町(上記と同様)
6月20日	おたがいさま新聞拡大版 リニューアル1号(通巻第7号)	福島市内 応急仮設住宅集会所(7) 二本松市(11)、本宮市(7)
8月1日	おたがいさま新聞第8号(通巻第8号)	支援活動情報や「浪江のえがお」の取材対象者、借上げ住宅自治会等(12)
9月15日	おたがいさま新聞第9号(通巻第9号)	合計 約900

(4) 三菱商事復興支援財団 2012 年度復興支援助成金

「市民公益活動・NPO 後方支援プロジェクト」

目的: 原発事故により避難が長期化し、生活再建や地域の復興に向けた課題が山積みする中、自ら市民活動団体を興して課題を解決しようとする人々や、既に活動を始めた団体に対し、組織・人材育成や運営のための後方支援を行うことを目的としています。

◆事業実施期間:2012 年 6 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

◆事業費:244 万円

◆事業のための人材費確保:1 名(相談業務やセミナーの企画運営に従事)

◆主な事業内容

1. NPO よろず応援・相談「萬屋」一団体設立や協働への取り組み等諸々の問合せや相談
福島事務所での電話相談や来訪、定期的な巡回相談等による窓口対応・相談、支援活動のコーディネートやマッチング等の業務
2. NPO 自立・運営セミナー「寺子屋」一震災復興への取り組みを行う組織・人材育成
NPO 組織運営講座、NPO 法人設立や組織運営、NPO 会計基準、合意形成(ワークショップ技法)等
3. NPO オーダーメイド支援「誂え屋」一企画書や助成金申請書、事業報告や広報等、組織運営に必要な業務に対する個別支援

取り組みの状況

事業の立ち上がりがやや遅れましたが、年度末までに一定の成果を上げるよう、取り組みを加速させます。

1. 萬屋…対応件数 5 件(問合せ対応は継続中)/活動グループに対する助成金説明会 1 回
2. 寺子屋
 - いっぺん聞いとこ講座「改正 NPO 法のツボ」 8 月 2 日(20 名、17 団体)
 - NPO による・NPO のための・改正 NPO 法に則った「NPO 法人設立・運営ガイド」
協働制作プロジェクト会議(5 回程度)を準備中(11 月初旬開始予定)
 - 監査学のススメ、毎日の会計@NPO 事務局等
NPO の日頃の課題やニーズに応える講座を企画中(年明け開始予定)
3. 誂え屋…対応件数 1 件(法人設立総会及び認証申請書類へのアドバイス等)



2011年度 事務局の記録(月例役員会 資料から)

福島事務所の様子について

訪問等 (2012年4月から主要な来客と用件を記録しています)

日付	団体名(氏名)等	用件	応対者
4月27日(水)	NPO法人まちづくり新町なみえ NPO法人コーヒータム(橋本由利子さん)	ご挨拶と情報交換	理事 古山郁
5月11日(木)	NPO法人ビーンズふくしま ふくしま若者サポートステーション	今年度のボランティア活動とプログラムについて	理事 古山郁 事務局 阿部美奈
6月3日(日)	福島民友新聞社(渡辺司さん)	ひと・つPJ追加取材	理事 松田英明、古山郁
6月4日(月)	JANC(竹内俊之さん他7名)	パートナーズ視察、取材	理事 古山郁
6月26日(火)	NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 (筒井のり子代表理事、栗原穂子さん)	パートナーズ及び県内NPOの支援活動状況や課題について取材	
7月2日(月)	ふくしま連複(羽鳥圭さん)、Bridge for Fukushima (加藤さん)、宮城県亘理町で支援活動を行うNPO	支援活動情報の交換	理事 古山郁 事務局 土谷一貴
7月9日、18日	菅野真由美さん/森田美和子さん	パートナーズへのご入会	理事 古山郁
8月3日(金)	NPO法人市民後見サポート(遠藤喜恵さん)	改正NPO法に関する情報提供(要望)	理事 松田英明、古山郁
9月6日(木)	福島大学地域創造支援センター及び地域連携課 (小暮照正副センター長、金谷光泰さん)	まなびピア2012ポスターセッションへの出展及びNPOへの参加拡散(要請)	理事 古山郁
9月28日(金)	NPO法人医療支援ネットワーク	福島県へ帰還する避難者への県中方部での支援活動(状況の取材)	

事業提案を行った助成金申請先とその結果について

助成事業名/提案事業名	申請先	提出日	結果
東日本再生ユースチャレンジ・プログラム2012 「ひと・つながる」復興支援調査・交流推進プロジェクト	住友商事株式会社 (環境部CSR部)	2012年 2月23日	採択
東日本大震災現地NPO応援基金(第2期) 支援情報ワンストップサービス化推進のための組織基盤強化	認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター	2月28日	採択
赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業 第7次助成 いつもの暮らしに戻ろう 一心のケア、コミュニティと生活再建一応援プロジェクト	社会福祉法人 中央共同募金会	3月28日	採択
2012年度 復興支援助成金 市民活動団体・NPO後方支援プロジェクト(テーマに基づく通称として)	公益財団法人 三菱商事復興支援財団	4月26日	採択
公益信託うつくしま基金 第10回後期助成金 NPOによる・NPOのための・NPO法改正に則った 「NPO法人設立・運営ガイド」協働制作プロジェクト	公益信託 うつくしま基金	6月17日	不採択

各種会議・研修等への参加について

今年度は、事務局スタッフ(特に、ひと・つPJ調査事業に関わるスタッフ)を、情報交換や活動報告等を通じて緩やかな連携の場としている会議には、積極的に出席してもらいました。

また、詳しい知識や経験を必要とされる会議、例えば、福島市子どもの権利条例制定推進会議には、この条約に詳しい会員や子育て経験のある事務局スタッフも共に参加し、情報共有やノウハウの蓄積を図りました。

会議(単発)やシンポジウム・視察等			
名称(主催)	日付	場所・会場等	参加者(敬称、略)
(ふくふく会議+ふくしま連復・被災者支援) 県北NPO連携会議	2011年 10月7日(金)	県北絆づくりセンター (NPO法人シャローム)	理事 古山郁
福島稲荷神社秋の例大祭「授産品セレクトショップ」	10月8日(土) ～10日(月)	パートナーズ福島事務所	福島在住の理事 及び事務局スタッフ
「ごちそうふくしま満喫フェア2011」(福島県) 「ぽーとなーずセレクトショップ」出展	11月5日(土) ～6日(日)	福島市 駅前通り(テントブース)	理事 松田英明、古山郁 及び事務局 阿部美奈、 大久保沙織
正月三が日の振る舞い・柚子茶	2012年1月1日(日) ～2日(月)	パートナーズ事務所	理事 松田英明、古山郁
福島県地域づくり総合支援事業 及び改正特定非営利活動促進法説明会(福島県文化振興課)	2012年 1月11日(水)	県農業総合センター(郡山市)	
スーパーマーケットフェア視察	2月1日(水)	東京ビッグサイト	理事 古山郁
東日本大震災・津波及び原発事故災害一現場NPOからの報告(講演) (日本繊維学会)	2月2日(木)	東京工業大学 田町キャンパス (東京港区)	
市民活動シンポジウム (福島市市民活動サポートセンター・ふくふく会議)	2月4日(土)	A・O・Z	理事 古山郁
地域サポート事業 事業報告会(福島県県北振興局)	2月4日(土)	コラッセふくしま	事務局 佐藤耕平
「地域のがっこう」講演会 (NPO法人いざかサポーターズクラブ)	2月14日(火)	福島テルサ	
野村総研セミナー(「NPO法人ビーンズふくしま研修会」)	2月21日(火)	A・O・Z	理事 古山郁
「楽しい内職プロジェクト」説明会(ふくしま連復)	2月29日(水)	ふくしま連復復興センター事務所	
NPO法人いざかサポーターズクラブ会員の集い(同法人)	3月23日(金)	温café(飯坂町)	
福島市男女共生参画センター連絡協議会 総会	4月19日(木)	ウイズもとまち	事務局 佐藤耕平
復興庁によるNPO等への取材/支援に関する説明会 (ふくしま連復)	4月23日(月)	コラッセふくしま	
ローズファンド審査会(福島県の審査委員として参加) (公益社団法人地域創造ファンドみやぎ)	4月4日(水)	地域創造ファンドみやぎ事務所 (仙台市)	理事 古山郁
桑折駅前応急仮設住宅自治会 総会	4月7日(土)	桑折駅前応急仮設住宅集会所	理事 松田英明、古山郁
福島学院大学 学生ボランティア説明会	6月11日(月)	福島学院大学駅前キャンパス	
ふくふく会議	6月13日(水)	福島市市民活動サポートセンター	事務局 土谷一貴
浪江青年会議所メンバーとの意見交換会 (福島大学災害復興研究所)	6月15日(金)	福島大学行政類 応接室	理事 古山郁
「ひと・つ」PJ挨拶廻り	6月18日(月)	浪江町災害対策本部(二本松市)、 (社福)浪江町社会福祉協議会	理事 古山郁 事務局 土谷一貴
福島学院大学 学生ボランティア説明会	6月21日(木)	福島学院大学駅前キャンパス	理事 古山郁
「理事の代表権の制限」に関する登記の研修会	7月18日(水)	仙台市市民活動サポートセンター	
NPO法人杜の伝言ゆるる10周年記念シンポジウム	7月28日(土)	みやぎNPOプラザ(仙台市)	理事 松田英明、古山郁
大分県弁護士会災害対策委員会(桑折町視察への同行)	8月23日(木)	桑折駅前応急仮設住宅	理事 佐藤玲子 事務局 佐藤耕平
(株)日比谷花壇との復興支援活動に関する意見交換会	9月3日(月)	福島市市民活動サポートセンター	
福島県保健福祉部との情報交換会(福島県、ふくしま連復)	9月13日(木)	福島県保健福祉部	理事 古山郁
3.11被災者を支援するいわき連絡協議会(通称 みんぶく) 円卓会議 視察	9月24日(月)	いわき中央台公民館	

会議(定例)や関連する催事等					
	事業・主催等	会議の名称等	日付	場所・会場等	参加者(敬称、略)
連携	ふくしま連携復興センター 月例会議等	応急仮設住宅の環境改善のための 総合的実装活動プログラムに対する意見交換会	2011年 9月22日(木)	福島県庁	理事 古山郁
		月例会議	10月19日(水)	福島県男女共生参画センター (二本松市)	
		月例会議	2012年 1月13日(金)	ビッグアイ(郡山市)	
		月例会議	4月20日(金)	郡山市文化センター(郡山市)	
		復興庁による NPO等への財政支援に関する説明会	4月23日(月)	コラッセふくしま(福島市)	
		月例会議	6月21日(木)	郡山音楽文化交流館(郡山市)	
		月例会議	9月5日(水)	郡山音楽文化交流館	事務局 土谷一貴、川村遼
連携 CSB支援	けんぼく6次化ミーティング 関連イベント等 (福島県)	第1回クラスター分科会	2012年 1月25日(木)	JAふくしま北信支店(福島市)	理事 古山郁 事務局 阿部美奈、佐藤耕平 豊口澄子、青田恵美
		第2回クラスター分科会	2月16日(木)	旧堀切邸(福島市飯坂町)	
		第3回クラスター分科会	2月24日(金)	杉妻会館(福島市)	
		事例発表会	3月22日(木)	福島県青少年会館(福島市)	
		「県産品フェア」 フルーツキムチ試食会・アンケート調査実施 (けんぼく6次化ミーティング分科会/いわさか花もも倶楽部)	5月16日(水)	うすい百貨店(郡山市)	
		平成24年度交流会	7月10日(火)	コラッセふくしま	
連携		ふくふく会議	6月13日(水)	福島市市民活動サポートセンター	事務局 土谷一貴
協力	生活支援コーディネーターの ためのハンドブック 制作委員会 (NPO法人日本ボランティア コーディネーター協会)	第1回HB作成委員会	2012年 8月1日(水)	福島県総合社会福祉センター (県社協) 研修室	理事 古山 郁
		第2回HB作成委員会	8月30日(木)	同 講堂	
		第3回HB作成委員会	9月26日(木)	ふくしまNGO協働スペース (福島市)	
	福島市子どもの権利条例 制定推進会議 (福島県ユニセフ協会)	子どもの権利条約制定推進会議 概要説明	2012年 4月20日(金)	県ユニセフ協会(福島市)	理事 佐藤玲子、古山郁 会員 森田美和子 事務局 阿部美奈
		第1回制定推進会議	4月25日(水)	A・O・Z(福島市)	
		ワーキンググループ打合せ	5月16日(水)	県ユニセフ協会/労金ビル5F	
		第2回制定推進会議・「子どもの権利条約」学習会	5月26日(土)	A・O・Z	
		ワーキンググループ第1回会合	7月11日(水)	県生協連 会議室	
		第3回制定推進会議	7月26日(木)	労金ビル5F 会議室	
		条例制定推進に向けた 市関連部局との意見交換会	8月29日(水)	福島市役所601号室	
		ワーキンググループ第2回会合	9月20日(木)	県ユニセフ協会	

研修(連続) ※日本NPOセンター助成事業(東日本震災現地NPO応援基金)を行うNPOに対する要請に基づき、現在もPJ参加中

認定NPO法人 日本NPOセンター NPO育成強化プロジェクト	NPOを磨く15の力 集合研修第1回	2012年 5月26日(土)～27日(日)	磐梯熱海温泉・浅香荘(郡山市)	理事 古山郁
	集合研修第2回	6月13日(水)	福島テルサ(福島市)	
	集合研修第3回	6月27日(水)	富久山学習センター(郡山市)	
	集合研修第4回	7月13日(金)	コラッセふくしま(福島市)	
	集合研修第5回	7月26日(木)	いわき産業創造館(いわき市)	
	集合研修第6回	8月4日(土)	コラッセ福島	
	第1回全体会議	9月1(土)～2日(日)	秋保温泉・岩沼屋(仙台市)	